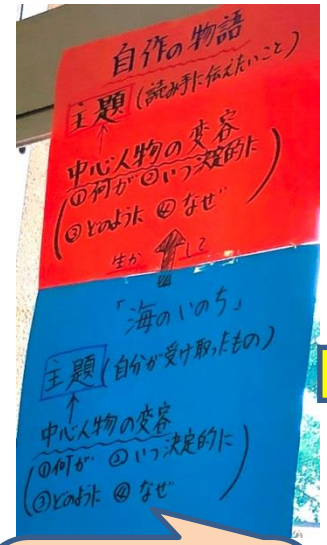
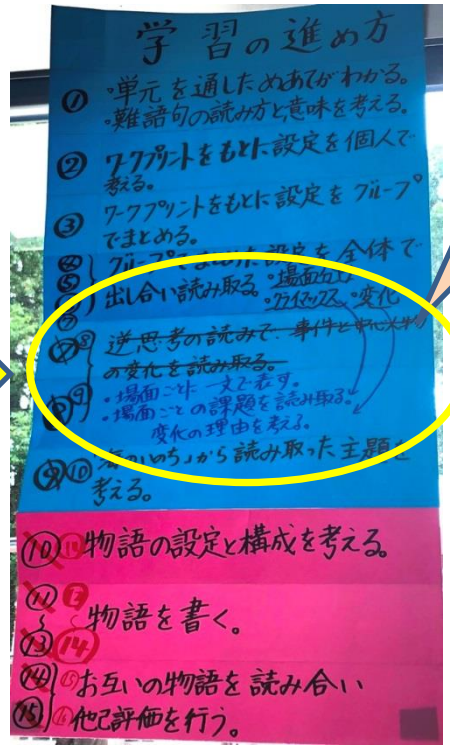
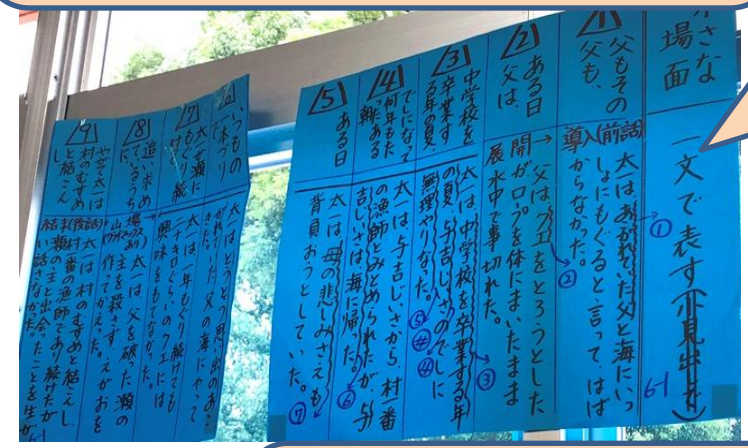
児童の学びによりそう国語授業「海のいのち」から

平成30年10月23日（火）三重第一小学力向上支援教員：阿南指導教諭



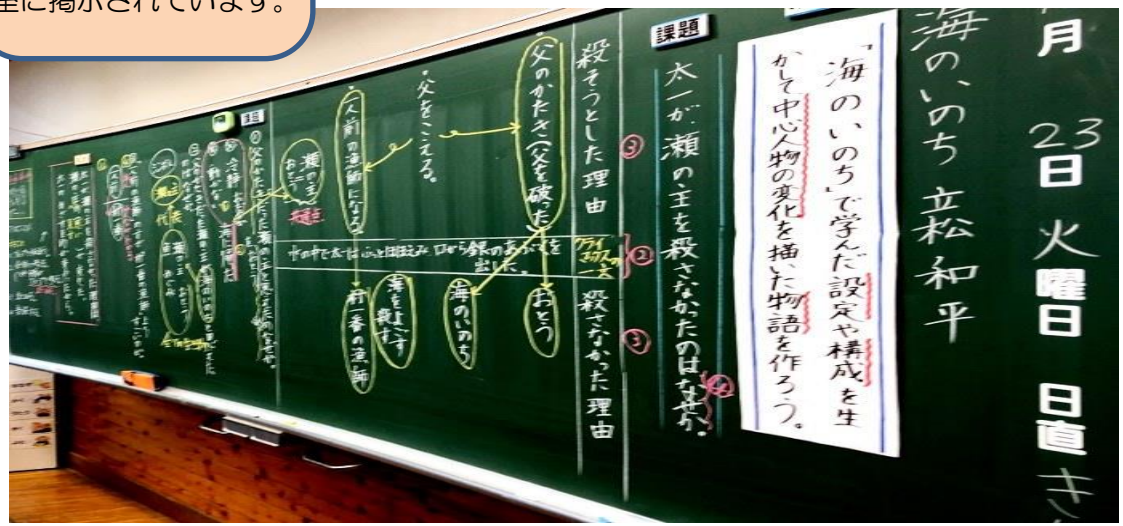


単元の進め方（単元計画）は常に教室に掲示されています。
また、実際に学習を進める中で、児童の学びに応じて柔軟に単元計画を書き換えていることがわかります。
あえて全体を書き換えるのではなく、修正した箇所が残っていることで、これまでの学びの足跡が児童に見えやすくなっています。



1時間1時間の児童の学びの足跡も教室に掲示しており、常にこれまでの学びや思考の流れを振り返ることができるよう工夫されています。

本単元のゴールは、教科書教材「海のいのち」で学んだことを活かして、自作の物語を作ること。ゴールイメージが常に教室に掲示されています。



本時の板書の記録です。
「**太一が瀬の主を殺さなかったのはなぜか**」
という課題に対する児童の考えが整理されて記録されています。
また「→」や「○」などの記号をふんだんに使い、児童の思考の流れが分かりやすく示されています。黒板自体が思考ツールとなっているよい例です。
授業ではやがて、児童の意見の中から、
「**父のかたきだったくえを『瀬の主』と思えたのはなぜか**」
という新たな課題が生まれてきました。
最後は、この課題に沿ってまとめが行われました。

児童の思考や学びに常により沿いながら、授業中であっても柔軟に指導の手立てを再構築し、作品の記述の中から登場人物の心情の変化を読み取るアクティブ・ラーニングが実現した、素晴らしい授業でした。